八王子市立中学校部活動検討会議　会議録

会　議　名	令和５年度第３回八王子市立中学校部活動検討会議
日　　時	令和６年１月 24 日（水）　午後７時 00 分～午後９時 00 分
場　　所	八王子市役所本庁　801 会議室
出　席　者	NPO 法人八王子市スポーツ協会　会長　澤本　則男 八王子文化連盟　理事長　土井　俊彦 八王子レクリエーション協会　会長　塩澤　迪夫 中学校 PTA 連合会　会長　廣田　貴子 大学コンソーシアム八王子　主査　鎌田　正純 スポーツ推進委員協議会　会長　青木　純 中学校校長会（体育）　校長　山川　毅 中学校校長会（文化）　校長　藤塚　康子 小学校校長会　校長　平田　英一郎 生涯学習スポーツ部長　平塚　裕之 スポーツ担当部長　志萱　龍一郎 学校教育部長　今川　邦洋 指導担当部長　西山　豪一 生涯学習政策課長　鶴田　徳昭 スポーツ振興課長　谷　靖之 放課後児童支援課長　倉田　直子 統括指導主事　鴨狩　淳一 地域教育推進課長　高橋　健司 学務課長　中野　みどり
欠　席　者	学校施設課長　武井　博英 教職員課長　櫻田　俊二
議　　題	（１）資料説明 （２）意見交換
会議の公開・非公開の別	公開　傍聴者の数　０
配　布　資　料	・令和５年度（2023 年度）第３回八王子市立中学校部活動検討会議 次第 ・第３回　八王子市立中学校部活動検討会議　資料 ・別添資料　八王子市の部活動改革【教員用】（A4 横向き 資料） ・別添資料　八王子市の部活動改革【保護者・生徒用】（A4 縦向き 資料）
会　議　内　容	１．開会 **平塚部長：**それでは、令和５年度第３回八王子市立中学校部活動検討会会議を開催いたします。開催に先立ちますが、市長選挙が終わりまして、12 年間の石森市

	長の任期も今週までとなり、来週には新市長をお迎えすることになりました。ご承知の通りと思いますが、地方自治体には教育委員会制度があり、この教育委員会制度の中でこれまで部活動検討を議論していたところです。教育委員会は市長が変わることで、今までの取組がその時の政治の思想・考え方で変わってしまうと教育の継続性を担保できない、というところで独立した行政機関になっています。ただ、昨今では市長部局・市長の考えや、市民と一緒になって教育委員会制度を取り組まないと、様々な教育の課題に対応できないため、総合教育会議という制度がございます。これは公の場で教育委員会の教育長・教育委員と、市長が定期的に懇談・意見交換・協議をする場であり、市長が民意を反映した意見を言うところですが、基本的には教育委員会の中で議論していく形となっております。後任は石森市長の後継者ということで、大きく変わるのは想定しておりませんが、教育委員会制度の中でということで、冒頭にお話をさせていただきました。前回の去年８月に第２回中学校部活動検討会議を開催してから少し時間が経っておりますが、経過としては第１・２回会議を踏まえ、11 月に教育委員会定例会で協議し、教育長を含めた教育委員の意見も聞きつつ、まとめている最中でございます。また、去年 11 月の総合教育会議でも市長の方に内容を協議していただき、今日に至っているという状況です。では、本日の会議に移ります。この会議につきましては、八王子市付属機関及び懇談会等の指針に沿ったものであり、会議は原則公開となりますが、本日は傍聴人なしというところで進めさせていただきます。また、会議後は会議録を作成し、市のホームページに掲載する都合、音声記録をさせていただいております。皆様、これからご発言いただくときには、お名前をおっしゃってからご発声いただくとありがたいと思っております。 ２．会議 **平塚部長：**それでは次第に沿いまして会議を進行したいと思いますが、まず事務局から一括して資料の説明をした後、皆様と意見交換をさせていただきたいと思います。会議の方も概ね 20 時半までに終了という形で進めていきたいと思いますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。それでは資料の説明をよろしくお願いいたします。 （１）資料説明 **鶴田課長：**それでは私の方から資料をご説明いたします。「第３回　八王子市立中学校部活動検討会議　資料」をご用意ください。表紙をめくりまして、2～3 ページ目はこれまで検討状況をまとめたものになります。市立中学校の生徒の１万３千人のうち約８割、およそ１万１千人の生徒が何らかの部活動に加入・活動している実態や、本市における学校合同部活動や地域人材の参画等の取り組み、将来予測される生徒数の減少、国の動向を見据えた持続可能な部活動と地域活動に参加しやすい環境づくりの両輪で子どもたちの体験機会を確保する、

	という議論をしてまいりました。2ページには、これまでの会議の皆様のご発言の抜粋を載せております。3ページにつきましては地域活動と学校活動が現状では別個のものと捉えられ、両者の連携が必ずしも十分でないことを示したものを、第2回検討会の資料より再掲しております。4ページをご覧ください。ここから本日の会議でご報告する新しい情報となります。前回の会議で 2 学期開始直前でございまして、その後に検討会で実施するとご説明しておりました、モデル地区における休日の広域部活動の効果検証事業が始まりました。年度途中ではありますが、これまでの実施状況について鴨狩統括指導主事からご報告いたします。 **鴨狩統括指導主事：**まず、休日の部活動に関するモデル事業につきましては、徒歩圏内で通えるニュータウン地区の上柚木中学校・宮上中学校・鑓水中学校の3校の 6 部活を対象に、休日に部活動指導員を配置して合同部活動を行い、先生はお休みをいただくという試行実施をしました。これにつきましては表に現状と今後の取組について記載しておりますが、成果としては、生徒が専門的な技術指導やバリエーションに富んだ練習メニューを受けられたこと。また、教員の負担が軽減され、教員の働き方改革として本来教員しかできないような仕事をする、教材研究等の時間の確保、家事・育児と仕事の両立ができるようになりました。教員の指導力の補完ということで、大会等で審判・技術指導を担当し、学校の中で熱心に最大限部活動ガイドラインを守ってやってきた方に、休日の部活動指導員を任せた結果、「自分の生活が変わった」「今後平日もやってほしい」というような言葉をいただきました。子どもたちについても、例えば鑓水中学校の野球部は今年度1年生もたくさん入ってきて11人揃いまして、部活動指導員の指導の結果、大会で 1 回戦を勝ち抜いたりと、やりがいを持って指導に当たられる方もいらっしゃいます。また、顧問との調整もよくやっていただいていて、役割分担を明確にして実施いただいています。課題としては大人数で練習を行うような施設、例えばテニスですね、上柚木中学校の硬式テニスは人数が非常に多くて、テニスコートの不足や、部活動指導員 1 名だけでは大人数の指導が行き届かなくて、安全管理に限界があるという回答もありました。また、「特別な配慮を要する生徒への指導・支援が十分に行き届くかに不安が残っている」という回答もありました。競技や種目によって部活動指導員の確保が困難でして、宮上中学校の男子バスケットボール部は、現状部活動指導員が確保されていないので、合同実施ができていません。継続して東京都の学校支援機構 TEPRO に募集をかけていますが、東京都で 1 番人気があるのはバスケットボールであり、指導者の取り合いになって見つからない状況のため、人材確保が困難である状況です。あとは平日や休日の指導者の指導方針や、練習メニューが一部異なるところがあって、当初は生徒が混乱する場面も見られます。こういった課題も踏まえて、来年度も継続して課題に取り組んでいきたいと考えています。また、鑓水中学校の女子バレーボール部につきましては、「顧問の先生が育児等で休日の大

	会に引率ができない」等の声があったのですが、「部活動指導員が入り、休日は休めるようになりましたので好意的に捉えている」、と。こういった状況を見て、他の部活動の顧問の先生から校長先生に「うちにもこのように対応できないか」とのお話もあったとのことです。以上です。 **鶴田課長：**1 点、資料に入る前にご報告があります。第 2 回検討会で触れました、東京都が都内の中学 2 年生・保護者・教員に実施した、未来へ繋ぐ部活動改革アンケートです。最終的には八王子市分の抽出データが八王子市に届いたら、ニーズ調査に活かすというお話をしていましたが、東京都は 2 月以降にアンケート結果を公表としておりまして、現時点でデータの公開を控えているという状況にあります。このアンケートの詳細につきまして、本日皆様にご報告できないのが残念ですが、東京都の制限解除後、検討会で皆様にご報告してまいりたいと思います。では、資料説明に戻ります。資料の 5 ページをご覧ください。令和 6 年度以降の方向性についてです。これまでの本検討会議の検討状況や、先程部長から紹介がありました、教育委員会定例会での協議、総合教育会議での市長との意見交換等を踏まえたものになっております。第 2 回検討会議で共有した学校部活動と地域活動が連携した将来像をより細密化したものになります。国の部活動の地域移行という方針から始まった議論ではありますが、どうしても地域移行という言葉を用いると、今の学校部活動の内容がそのまま地域のどなたかに引き継がれるという印象を与えてしまいます。そこで、本市は部活動地域移行という言葉にとらわれずに、持続可能な部活動と、地域の活動に参加しやすい環境づくり、これを連携させることで子どもの体験活動・参加機会を支援していく方向性で打ち出しております。左側の図をご覧ください。学校部活動の部分です。学校においては、全校に設置する部活動、学校ごとに特色のある部活動、広域部活動といった区分を設けまして、これに基づき、令和 6 年度から活動種目の精選を段階的に行っていきます。また、図の右側の青色の部分ですが、地域の多様な活動について、教育委員会が活動内容・活動場所・参加費等の情報を収集し、生徒・保護者に提供します。今よりも地域活動に参加しやすい環境を整備してまいります。そして、図の中央ピンク色の部分ですが、学校と地域の両者を繋ぐ領域として、学校と地域団体が連携して実施する教室やイベントを想定しております。青色の地域団体の継続的な活動に対して、このピンク色の部分は地域の団体の方に依頼・実施していただく、単発・複数回のシーズン制の活動を取り入れていきたいと考えております。6 ページをご覧ください。地域団体へ情報の収集・発信を依頼するところになります。現在、生涯学習スポーツ部では八王子市スポーツ協会・八王子文化連盟・八王子市レクリエーション協会・大学コンソーシアム八王子加盟校の各団体へ、本市の方向性を説明し、地域活動団体の情報収集・発信について、ご協力の依頼をしております。各団体におかれましては、秋口から冬の時期にかけて会議・説明の場をご提供いただき、感謝いたします。どの団体についても、今後 2 月を中心に調査票の送付と回答をさせていただき、

	3 月に市で第 1 弾の地域団体情報の取りまとめを行っていきたいと考えています。こちらの資料のページの図ですが、こちらは先行自治体である、愛知県安城市の地域団体情報の紹介シートを抜粋したものです。愛知県安城市では 100 ほどのスポーツ文化レクリエーション団体の情報が、市のホームページで閲覧可能になっております。本市においてもこれに近いイメージで地域団体の活動内容・場所・スケジュール・参加費等の情報を収集し、生徒・保護者に提供することを目指して進めております。次に 7 ページをご覧ください。こうした市の方向性について、生徒や保護者への周知に関する事項です。令和 6 年 1 月から 3 月にかけてリーフレットとして八王子市の部活動改革と題した広報を、児童生徒・保護者・学校運営協議会・地域団体等を想定して、発信してまいります。令和 5 年度末までに全 3 回の発行を予定し、第 1 号では本市の部活動の現状や、検討会議でお示しした今後の方向性等について説明をしてまいります。また、冊子の末尾に QR コードをつけて、オンデマンド動画説明も視聴できるように準備を進めております。8 ページは、学校向けへの情報発信です。こちらは現状の中学校部活動を先程のページで紹介しました、全校設置の部活動・特色のある部活動・広域部活動、こういったものを再編するための道筋を示した資料を作成しております。生徒の活動環境の激変の緩和として配慮し、令和 6 年 4 月から段階的に再編していくことを示す内容となっております。こちらの方に掲載した資料については、本日補助資料として皆様にお配りしております。この写真について鴨狩統括指導主事より補足説明があります。 **鴨狩統括指導主事：**まず「別添資料　八王子市の部活動改革【保護者・生徒用】（A4 縦向き 資料）」になります。こちらご覧ください。令和 6 年の 1 月号ということで、今後学校を通じて各家庭にも配布させていただきたき、オンデマンドでも配信ができるように準備をしております。八王子市の部活動改革に向けた取り組みで、こういった資料を作らせていただいています。これまでの学校部活動は成長期の子どもたちにスポーツや文化に親しむ期待を提供する、重要な役割を担ってきました。しかし、少子化に伴って生徒数の減少や教員の働き方改革等の課題に直面していることを、一番最初の全文に書かせていただいています。次にグラフが 2 つありますが、1 つ目の背景は減り続ける生徒数、2 つ目の背景は少子化でも現在学校で開設されている学校部活動に大きな増減がない。また学校間で開設部活動の差が 4 倍に開いていることや、受け持つ教員が足りないという課題も示しています。背景 1 は日本の地域別将来推計人口ですが、令和 4 年度の八王子市立中学校の生徒数 13,005 人であり、平成元年と比較すると約 35%減になっております。今後、2045 年までの 10～14 歳までは人口推計でさらに減少と見込まれています。子どもが減少するということは、学校の学級数・教員数も減少しますが、学校部活動数を維持しており、顧問の先生が掛け持ちで部活動を持つことで、かなりの負担が生じているのが現状です。これは補足ですが、本日の官報で、青森県が学校部活動と地域クラブに関する指針案を取りまとめた

	という報告がありました。内容として、校長先生は児童生徒・教員数、部活動指導員数・外部指導者の配置状況等も踏まえて、指導内容の充実や、児童生徒の安全確保、教職員の長時間勤務の解消等の観点から、円滑に学校部活動を実施できる、適切な数の学校部活動を設置する、ということを定めたということです。青森県の教育委員会によりますと、2022 年度の県内の公立学校と部活動数がかなり多いのですが、顧問 1 人の部活動や、複数の部活を 1 人で担当する例も多いと。こういった状況で他の公務が滞り、結果的に先生方の時間外勤務につながる恐れがあったため、県として指針を取りまとめたという報告もあります。八王子市としても持続可能な部活動と地域活動に参加しやすい環境づくりの両輪によって、子どもの体験機会拡大を検討する必要もあることや、先生方がこれまで担ってきた部分も含めて、かなりの負担もあるということ。次のページを見ていただくと、子どもたちの成長を支えてきた学校部活動を続けると、このような中学校部活動の課題が出てくることになります。時代の変化に合わせて誰にも無理のない形で、子どもたちの体験活動のあり方を変えていく必要があることを謳っております。こういった背景もあり、国もガイドラインを作成して、先程鶴田課長の説明があったように、学校部活動の地域連携や地域クラブの活動の位置づけ等も踏まえて示しているところになります。学校部活動の地域移行を踏まえて、国が示した学校部活動の地域連携・移行のスケジュールとして、令和 5～7 年度までを改革推進期間と位置づけて進めていくことになっております。これまで八王子市としては、次ページの広域部活動の拠点校方式・合同部活動方式で、平成 13 年度から他市にない先進的な取り組みをし、子どもたちの部活動の場を広げてきましたが、現在は拠点校方式で部活動指導員が配置しても、時間・距離等で他校から来る生徒がいない状況です。一方、子どもの数が減少しても、部活動数はそのままですので、例えばサッカーであれば、A 中学校では部員が 5 名、B 中学校では 6 名のため、合同チームで練習・試合をする傾向が増えてきています。こういったことを八王子は続けてきました。現状と課題は鶴田課長からお話がありましたので、割愛いたします。次のページは、キーワードとして子どもの選択肢の拡大や、生涯学習・生涯スポーツの活性化のため、幅広く子どもたちが活動できる場の提供となっております。こういったことも踏まえ、校長会で学校に学校部活動改革を説明させていただきましたが、「今後令和 6・7 年も含めて、学校が見通しを持って、何をしたらいいのかを示してほしい」とのご意見をいただきました。今度はこちら「別添資料　八王子市の部活動改革【教員用】（A4 横向き 資料）」になります。こちらは部活動改革で学校が令和 6 年度に何をするべきか、というところで市から 4 つを示しています。1 点目は、運動系や文化系を問わず、部活動の新設・増設はしないということになります。新たに部学校部活動を新設すると、部活動を複数掛け持つ教員が増えることで、学校や教師の負担増となることから、令和 6 年度から部活動は新設しないと市は考えております。保護者から新しい学校部活動の開設等の要望があった場合は、生涯学

	習スポーツ部で作成した外部団体の一覧から主体的にお手伝いをお願いしていただきます。2つ目は、計画的に複数の学校部活動で部員募集停止の設定をすること。オンデマンド説明の際、市が学校に変わって説明をさせていただきたいと思います。今後、八王子市は生徒が減少し、それに伴って学級・教員数が減少しても次の管理職の先生に引き継ぐためにも、4つのカテゴリーと、特色のある部活動の段階的な再編を示しました。その過程で部員募集停止の部活動を複数設置し、学校にとって持続可能な学校部活動ということで再編していきます。生徒の活動の場は、外部団体の活動の場へと広げていくことになりますが、例えばA中学校でサッカー部は部員募集しない時は、保護者や子どもたちが主体的に外部団体を選んでいくようになると思います。外部団体に加入する場合は、費用・保険代等は受益者負担ということを伝えていきたいと思います。先程説明しましたが、3つ目は4つのカテゴリーと、特色のある部活動に集約することです。こういった内容も含め、拠点校方式と合同部活動方式を合わせた制度を、今考えています。複数校で合同部活動を実施できるか検討し、実施可能なら申し込みいただき、部活動指導員を配置する。先生たちが休めるように、広域部活動に部活動指導員を配置していく。部活動指導員の予算も限りがありますので、希望通りにはならない場合がございますが、私の方から色々な学校の取組例をご紹介したいと思います。学校名はまだお伝えできませんが、多くの学校がすでに動き始めています。ある中学校では生徒数減少に伴い、部活動の再編のスケジュールを決めています。再編として、現在精力的に活動し、大会でも実績のある陸上部・吹奏楽部を特色のある部活動に位置付け、活動を継続しています。ただ、長期的な視点で活動するため、陸上部の陸上競技種目を精選し、指導者が指導しやすい環境を整えました。次にサッカー部・女子ソフトボール・女子バスケットボールは集団種目のため、生徒数の減少での継続は難しいと。そのため、令和7年度にアウトドアスポーツのような 1 つの部活に移行し、アウトドアスポーツを生徒の興味関心に合わせる。例えばフットサル・バスケットボール3on3等、日替わりの部活動に変え、顧問の先生は4・5名の教員でローテーションする。令和6年度前期は、移行期間で各部活動は継続しますが、大会の参加を中止する等、活動を縮小していきます。また、文化部として美術部とクラフト部は、カルチャー部という一つの部活として移行します。ここでは手芸・工芸・プラモデル・美術・釣り・農業体験・地域行事参加等、日帰りで幅広い活動を地域人材と連携していきます。ソフトテニス・バドミントン部は、次年度半ば以降に地域クラブに運営を任せ、地域の指導者が学校に来て指導し、休日は生徒が地域クラブの活動に参加予定であると。学校施設を活用した地域活動として生徒が参加するイメージであり、学校運営協議会でも話をして、進めていくということです。その他、あと 2 校についてお話しますと、全教員にアンケートを実施して、その結果を基に全校に設置する、4つのカテゴリーの部活動や、特色のある部活動として、ど

	の部活動を位置付けるかを検討しており、バレーボール部とサッカー部を令和6年度に合同実施する方法で今調整が進んでいます。 A中学校ではサッカー部が設置されていないため、B中学校サッカー部と合同で実施することで、A中学校生徒のニーズを汲み取る方式を作ると。元々、サッカー部の人数も少ないため、合同実施で改善するアイディアでボトムアップできるように、校長先生が今進めています。他にも情報はたくさんいただいていますが、こういった活動を説明後に、学校はすでに始めている状況です。次のページ以降は八王子市の中学校の例ですが、令和 5 年度の学校部活動の設置と、副校長先生・養護教諭・校長先生が顧問になった例ですが、これを新しい4つのカテゴリーに部活動を再編していくと。再編として部員募集停止する部活動もありますので、再編した 4 つの部活動を 8 名の顧問の先生のチームで、毎日ローテーションで見ていく。活動日は週 2 日以内や各 1 時間以内という想定で、先生方の過度な負担を解消する。また、一生懸命に活動している、特色がある部活動についてはバドミントンとバレーボール。広域部活動の野球部については 3 校でやることをイメージした図になっています。次のページで A 中学校としておりますが、こちらは広域部活動が行わないということで、9部活動・顧問数12人の学校となりますが、こういった組み方もあるだろうということで示しています。令和6・7年度に学校が何をすればいいかを示す資料となります。こちらの資料につきましては、学校運営協議会や学校の先生にも説明の動画を踏まえて、お伝えしていく予定となっております。説明は以上でございます。 **鶴田課長：**「第３回　八王子市立中学校部活動検討会議　資料」の残りの部分ですが、9ページの趣旨は、今年度で検討会は終結ではなくて、今まさにスタートを切ったばかりであり、令和 6 年度も皆様のご参画・ご意見をいただいた上で、部活動改革を進めていきたいので、今後も参加をよろしくお願いいたします、という内容になっております。10 ページにつきましては、今後の取り組みのスケジュールを表にしたものです。広域部活動を始めとする、部活動の地域連携拡大や、地域団体の情報収集・発信等、本日の資料の各項目でご説明した内容を表としたものになります。最後のページになりますが、本日令和 6 年度以降の方向性について、図をお示しいたしました。そこに含まれる地域団体の活動状況の調査のことについて、ご説明をいたしました。それから、生徒や保護者への情報発信企画への周知についてご説明をいたしました。こういった項目を説明してまいりましたが、一個一個について皆様の意見を賜りたいと思います。市側からの説明は以上になります。 （２）意見交換 **平塚部長：**はい、ありがとうございました。これから意見交換に入りますが、その前に説明もかなりボリュームがありましたので、説明内容や資料に不明なところや、ご質問があれば初めにお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

	意見交換の中で、不明点・質問についてもご発言いただければと思っています。それでは、意見交換に入りますので、委員の皆様、忌憚ないご意見の方をよろしくお願いいたします。基本的には今後の方向性の大きな枠組みを示したっていう部分があると思います。学校部活動がどういう風になっていくのか、そして地域活動にどう繋げていくか、そういった形になるかと思いますので、それぞれのお立場の方で感想を含めてでも結構ですので、ご発言いただければと思います。 **参加者：**令和 6 年度からの改革、4 つのカテゴリーの部活動、特色のある部活動ということで、2～3 ヵ月後の急な話だったので驚きました。これを保護者と生徒たちはどのように受け止めるかは、この紙のだけでは中々わかり辛いです。今頑張って部活動をやっている子どもたちにどう受け止めてもらえるかの説明が、オンデマンドのような動画でどうなるかはわかりません。ただ、すごく丁寧に説明していただかないと、一生懸命にやっている子どもたちが、ショックを受けてしまうのではないかと思いました。急に自分の部活動が週 2 日で 1 日 1 時間になったり、段階的に廃部となるのは今までもあるので理解できますが、急にサッカー部がレクリエーション部になってフットサルの日替わりになります、と言われた時に受け止め切れるでしょうか。私は今、実際に受け止めきれない気持ちでいます。この短い期間で学校が準備できたところから進めていく形と思いますが、このような事実だけを、生徒と保護者へ突然示されるのは相当ショックが強くなると思います。 **鴨狩統括指導主事：**そういった思いでこれまで学校は子どものために、廃部しない方向としたり、顧問を頼んでいました。しかし、学級数・顧問数の減少、指導できない顧問の先生が入ってくる状況で何とかやり繰りしようとして、先生たちが残業時間 80 時間となったり、顧問を 2 つ掛け持ちする形となりました。お気持ちはわかりますが、国が示したように全国的にも限界が来ていますし、一生懸命に頑張っている生徒の活動の場は学校だけではない点も説明をさせていただきたいと思っています。習い事では対価も必要になりますし、専門的な指導や安全面もあります。学校から保護者に対して部活動説明会をするのは難しいので、市が学校に代わって説明をし、子どもたちの活動の場を少なくなるのではなく、広がっていくイメージをお伝えができればと思っています。校長先生の方々へご説明した際も、同じようなご意見もたくさんいただいていますし、何とかしないといけない状況です。2000 年代の初めの頃に部活動地域移行の話は出ましたが、ご意見をたくさんいただいて中止になり、現在に至った背景もあります。本来、先生にしかできない仕事の時間も奪われ、学級崩壊や先生の休職になり、子どもたちに影響が出てしまいます。すぐにご理解いただくのは難しいと思いますが、その点もお伝えしていく必要があるとも考えております。部活動が多い学校だと、最高 22 の部活動を持つところもあり、22 の部活動を 2 人で見たら 40 人程度必要です。ただ、先生は 40 人いないので、先生が部活動を掛け持ちして

	いた学校もあります。もちろん、いきなり令和６年度にやるのではなく、学校に応じて段階的に部活動部員の募集を停止や、週２日以内にしたり、４つのカテゴリー・特色のある部活動に集約していきます。あとは広域部活動・地域のイベント・地域団体にも幅を広げていく意味となりますので、しっかり説明をさせていただきます。 **参加者：**先生方の働き方改革の最終的な形状として、その方向に移っていくのは理解ができますし、仕方がないことだと思いますが、タイミングや説明の仕方がすごく大事であると思います。「段階的に」と言っても学校は４月から進めていくかと思います。この１月末～2 月になって「来年度から今までやってきたサッカー部は、段階的にこのようになります」と言われても困るので、その説明の仕方を丁寧にしていただきたいです。子どもたちが混乱しない説明の仕方というのが大事であると思います。 **鴨狩統括指導主事：**学校によっては人数が少なくて維持が難しく、入部もない部活もあります。継続するなら、例えば保護者の方が顧問に代わってチームを見るなら、指導者が違うだけで活動時間や場所は変わりませんので、学校によって対応が変わると思います。ただ、最終的には市としては 4 つのカテゴリーの特色のある部活動という形で整理する必要があるとは思っています。 **平塚部長：**はい、ありがとうございました。他にご意見等はございますか。 **参加者：**校長会等でもご説明いただいて理解が深まりましたので、当校でも段階的に子どもたちに無理のない居場所の確保をしながら進めていきたいと思っています。部員が少なくなって廃部も仕方がない場合は、前年の早い段階から丁寧に準備する段取りを進めていきます。その部活動も部員が卒業するまで活動できるようにし、卒業と同時に廃部する手順であっても、慣れ親しんだ部活が卒業後に廃部する、寂しい気持ちには配慮したいと考えています。一方でこの部活動改革の中の一番関心を持つ層は、小学校 4～6 年生なのかなって思っています。今の中学校の在校生は段階的に丁寧に進める活動が保証されたり、居場所があったり、これから先も十分に学校現場で考えて、子どもたちの活動の場所を各学校が配慮しながら確保して、地域の方と連携していく形になるっていうことが見えてきます。本校の中山小学校・高嶺小学校の児童・保護者の皆さんが、どういうようにイメージを持てばいいかも新入生説明会でしっかりと説明はしますが、保護者の「中学校といえば部活であり、青春だよね」と思っている世代の方々へ、どのようにすれば「新しい部活動改革・地域と連携した部活動」というイメージを持ってもらえるかが、学校の管理職だけではすごく難しいと感じています。そういうイメージがある中で、いくら「二次元コードで説明がわかりますよ」と伝えても、どれくらい見てくださるかが心配でもあるので、小学校に出向いてもらい、丁寧な説明をしていただく必要もあるのかな、と感じているところです。以上です。 **平塚部長：**ありがとうございます。他にもございますか。

	参加者：情報の共有化をしないと、小学生が「中学生になって何やりたいのか」っていう時に「部活動が廃部した」という状況もあると思います。入学前から「中学校は〇〇部が有名だ」・「地域団体が受け皿になりうる」という情報を流すのが大事であり、子どもの気持ちになって準備していくのが大前提でないでしょうか。今でも美術の先生がいないので、講師を呼んでいる中学校もありますし。「この学校は〇〇部があります」と明記したものを入学説明会で渡すべきです。また、今は学校を選べますので「〇〇部に入部するから、この中学校に行きたい」という子はいますから、そういう情報源となるツールを教育委員会からご用意していただきたいと思います。 **平塚部長：**ありがとうございました。在校生・小学生・保護者等への配慮の話がありましたが、小学校にはどのように対応していますか。 **鴨狩統括指導主事：**今回の保護者向けの資料は、オンデマンド説明も含めて、小学校や校長会にもお伝えさせていただきましたが、我々が小学校に出向くことは考えておりません。「今までは学校の部活動だけ、地域クラブだけといった形でしたが、今はそうではないし、生涯に渡って活動できます」というのは伝えていきたいですし、「いろんな選択肢がある」というのも各担当で集約をして資料として見られるように進めていきます。 **鶴田課長：**先程の「第３回　八王子市立中学校部活動検討会議　資料」6ページで先進自治体の例を基に、地域団体の紹介の一例を出しましたが、我々生涯学習スポーツ部もリスト作りだけでなく、リストを活用した学校以外の自己実現の道がある、というような広報とセットにしたいと思います。リストのみだと部活動改革が進まないので、今回は第１号案としてお示ししておりますが、第2・3 号といった中で子どもたちの疑問点等も答える必要があると認識しております。 **平塚部長：**土井委員からもお話ありましたが、小学校・小学生・保護者へ丁寧に情報提供していただきますよう、よろしくお願いいたします。 **参加者：**先程の子どもたちへの情報提供の件で、「第３回　八王子市立中学校部活動検討会議　資料」の５ページの一番右側ですね。地域団体の多様な活動で「教育委員会は活動内容・活動場所・スケジュール・参加費等の情報を収集し、生徒・保護者に提供」というのはいつ頃を目安にされていますか。段階的にやらざるを得ないとは思っていますが、受け入れ先の地域団体を確保してから学校も動かないと、生徒・保護者が「シャットアウトされた」と受け取られかねませんので、目安で構いませんので、時期を伺いたいです。もう一つは、校長の立場として一番頭を悩ませているものですが、4つの部活動・特色のある活動となると人事が絡んできます。2月の終わりに、来年度の人事が決まります。例えば、バドミントンの部員・顧問・専門家もいないので、段階的に廃部しようと思った矢先に、「バドミントンをやりたい」という教員が入ってくるとします。私としてはバドミントン部を復活させるかなと思いますが、廃部が検討する段階では

	その情報が学校側に伝わっていません。もっと早くわかれば学校も、「来年度からバドミントンの専門家が来るので、特色のある部活動になる」と伝えられるので、子ども・保護者も学校選択の要素の一つとできます。例えば、陸上部が全国レベルですが、確実に対価が取れるかっていうとそうもできません。悩ましいところなので、生徒・保護者に提供するタイミングは大体いつ頃を想定しているのかを知りたいです。 **鶴田課長：**情報収集に関しましては団体の皆様と調整しており、2 月に収集し、3 月に庁内で見られる形にしたいと思います。4 月入学後に部活動説明会もあると思いますので、予定では 4 月頭にホームページにアップできていて、部活動の説明時に、「八王子市はこれから部活動を選んでもいいし、地域活動に参加してもいい。皆さんのやりたいことをやってほしい」という趣旨で説明ができるように、閲覧可能な情報をアップできるように考えております。あともう一点は質問に対して別の切り口になりますが、先程地域団体の活動があるから学校の活動も移行できるという話がありました。学校側から見るとその通りですが、地域移行という言葉だと、地域団体が種目を引き継ぐイメージになりがちなので、八王子市は地域移行という言葉ではなく、部活動改革という言葉で子どもの生涯学習体験活動という切り口で考えております。廃部する部活の種目もあると思いますが、地域には今の学校の部活にない種目もありますので。 **参加者：**すみません、選択肢が広がるような表現もあったので、公開時期の情報を早めに知りたかっただけだったのですが。 **鶴田課長：**失礼しました、先ほど申し上げたようなスケジュールとなります。 **鴨狩統括指導主事：**たしかに公立学校なので人事が絡む話だと思います。他市では「部活は全部廃部し、地域団体活動になる」というところもあります。八王子は今まで先生たちが本当に身を粉にして部活動運営・大会運営をしてきたので、全部活動を廃部しない方針です。顧問をやりたい先生もいますし、先生が活躍して子どもたちを育てていきたいという先生たちの思いもあるので、特色のある部活動を始めとしたガイドラインを考えています。ただ、例えば先生の希望でバドミントン部を作っても、その先生が今度異動した時に誰が持つかって話にはなります。そういった先生たちは、兼職兼業で地域のスポーツ団体で指導する方向もあると思います。ただ、労働基準法もあり、残業時間を守らないと兼職兼業できないこともあり、他の市区町村で研究が進んでいます。スポーツの場を学校だけに絞らず、地域にも広げる方向もあると思いますので、先生たちも活動したいところで、例えば兼職兼業できるような方向にはなっていくのだろうな、と思います。 **谷課長：**調査については、今スポーツ協会等さまざまな地域団体へ調査をお願いしている段階です。基本的には 3 月に調査結果を出していきたいと思っていますが、すべてを網羅した情報を出せる状況ではないと思います。段階的に増やしていくことが現実としてある、ということも付け加えさせていただきます。

	参加者：前回保護者の声で、「学校部活動を 3 年間やると、内申点に良い影響があるとか考える保護者に対してどう考えているか」ということで、「地域活動・生涯学習として続けている活動も、学校の部活動も変わらずに大切に扱っていく」ということは、校長として説明できます。ただ、これが入試のアドバンテージになるかは相手次第のため、答えかねるところです。そうした保護者の不安に、私はこのように答えようと思っていますが、一方でどう答えればいいだろうとも思っています。 **鴨狩統括指導主事：**以前からも「こういうことすると内申点が下がる」といったデマによって、心配されるような保護者もいらっしゃると思います。私立学校はわかりませんが、東京都立高等学校の「やったことを 4 つ程度に書いてください」というのは得点にはならない、というような情報もお伝えする必要はあると思っています。内申点について進路説明会等で説明する必要があると感じますが、内申点の評価は基本的に授業の中のものであり、授業の遅刻で内申点が下がる学校は現在ないです。そういった説明は理解を得られるまでは繰り返す必要があるとは思います。3 年間続けたものがあるなら、学校部活動だけじゃなくて、地域活動やボランティア活動でも問題ないというのを、進路説明会・キャリア教育でもアナウンスしていきたいと思います。また、そういった心配があることを念頭に校長会・副校長会・進路指導主任研修会でも間違った情報に左右されないようにお伝えさせていただきたいと思います。 **鶴田課長：**内申点の誤解について、私の家族からも「今日は具合が悪いが、部活動に行かないと内申点が下がる」と聞きました。そういった保護者・子どもの固定観念を取り除いていき、「自分のやりたいことを第一に考えよう」というメッセージを発信するのが大事かなと思っております。 **参加者：**3 年前、レクリエーション協会では日本レクリエーション協会から依頼を受け、八王子市中学校 6 校でここに載ってないようなスポーツをやりました。1 年間想定で考えていましたが、「部員数も増えたので継続してもらえないか」と頼まれ、2 年目はボランティアが 3～4 時頃に行って 1 時間半実施して帰る、というのを 6 校ともやってきました。今は 3 年目を過ぎ、1 年目は日本レクリエーション協会で謝金が出ましたが、2 年目は全員がボランティアをやっていました。しかし、仕事を持つ人たちが行っており、学校でやらないようなスポーツで、子どもたちにすごく人気があったので、6 枚が全部繋がってやっております。そして、日本レクリエーション協会に相談し、八王子レクリエーション協会からお金を出し、いくつかのスポーツ用具を各学校に貸しています。新しいスポーツですから、レクリエーション協会の公認資格である、スポーツ公認資格を取った方を中心に各学校へ行き、毎週人気を博しています。スカットボールというスポーツなのですが、全国的に流行しており、八王子の町会でも教えています。子どもも 2～3 年経つと 3 年生になり、その子たちがさらに教えているような状況です。そういった経験もあるので、新しいスポーツを提案することもいいのはない

	かと感じています。もし希望があればチラシもお見せします。先生や近所の大学生に教えて講師をしてもらったり、レクリエーション協会が現地に行くような形で、毎週提供しています。 **平塚部長：**ありがとうございました。情報をどう提供するかは、今後大きな視点だと思っています。先程、各団体の情報を発信することについて何度も繰り返ししたところですが、そもそもニュースポーツがまだ認知がされてないと思いますので。情報発信に工夫が必要ですね。何か補足コメントはありますか。 **鶴田課長：**八王子市レクリエーション協会の取り組みは、スポーツ庁からも取材され、Youtube にも配信されています。「第３回　八王子市立中学校部活動検討会議　資料」の 5 ページのいろんな種目をゆるやかに楽しむ、といったところを先行して行っているものになります。レクリエーション協会から学校に行くだけでなく、体験会を開催したり、主導者講習で技能を身に付けた方が学んだ成果を地域で生かす、という形で子どもの体験会の幅も広がるではないかなと思います。レクリエーション協会へどのようなことが実施可能かも含めて、ご相談させていただきたいと思います。以上です。 **参加者：**今後、学校ごとに特色のある部活動を設置していくことになると思いますが、1 回決めたら特色のある部活動として継続するのか、それともその時々によって変わるのか、あと近隣校のバランスという面でも考えていくのでしょうか。 **鴨狩統括指導主事：**特色のある部活動について、令和 6 年度に熱心に活動していたり、部員が多かったり、活動実績があっても、いつまでも継続させるのは難しいので、その時々に変えていくのはあると思っています。これは校長会とも相談中で結論は出ていませんが、小学生から中学生までアンケートを取って、「この学校にはこういう部活があってほしい」というニーズを汲み取る必要があるだろうな、とは思っています。ただ、隣の学校と同じ部活で被るから、といった調整は中々難しいと思いますし、場合によっては広域部活動として一緒にやっていくこともあると思います。ある学校で教えていただいたのですが、同じ部活の学校同士で一緒にやれば、顧問 2 人ずつで合計 4 人の顧問となります。それで合同チームを作って、4 日間で毎日ローテーションすれば、先生は 3 日間も教材研究といった時間を作れます。場所はさまざまな中学校に行くようになりますが。そういうようなアイディアもあるので、工夫次第で特色のある部活動にもできると思います。学校からボトムアップでいろんなアイディアを教えていただいていますが、場合によって近隣校同士で一緒にやることもあると思います。人や予算面でも顧問数には限界がありますし。 **参加者：**どうにかしないといけないのもわかりますし、ここまでのものを作って、大変だったのだろうなともお察しします。ありがとうございます。お伝えしたいことが 2 点あります。1 点目は小学校の話を土井委員からいただきましたが、こちらもお知らせをしていないので、状況を保護者は何もわからないと思い

	ます。令和 6 年 4 月からの話なら、すぐにも情報提供していかないといけないのかなと。「部活があるから、そこの学校に行く」というのはよくあるので。人事は仕方ないにしても、部活動改革について早めにお知らせした方がいいのではないかと。2 点目は、何をやるにもお金がかかるという、受益者負担というのは課題となるのではないでしょうか。失敗事例も聞きますし、金銭面で部活動に行けず、居場所がなくなったり、時間が余ってしまうのが心配です。受益者負担で難しいとも思いますが、対策があるならお知らせいただきたいです。生活保護家庭が多い地域もあると思いますので、対策を考えていただきたいです。 **鴨狩統括指導主事：**金銭面はとても難しい問題です。部活動によっては顧問の先生が負担したという話もあったほどです。競技によってはユニフォームが 2 種類あります。それに対する補助は難しいと思います。保険については、学校部活動・教育活動であればスポーツ振興センターで対応ができますが、部活動でないと受益者負担は避けて通れないです。ある学校校長先生から聞いたのですが、「剣道部は学校施設の道場があり、地域に剣道を教えている人がいるので、来年から学校の場所貸す。子どもたちは剣道を続けられるけど、部活ではなくて顧問先生もつけないことの了承を得ている。ただ活動費等がかかるから、そのあたりを今後調整していく」と話をされていました。最低限、子供たちが怪我した時に保険が出るとか、交通費といった面を団体の道場の方が決めていく、という形で調整を始めているという方もいました。ただ、受益者負担は避けられないのではないかと思います。 **鶴田課長：**地域活動では指導者への謝金のような形であれ、特に指導者がいない同好会のような形であれ、みんなでお金を出し合って、活動の場所と機会を確保していくという前提があります。一方、広島の市町村で国の補助金をもらって、部活地域移行の実証事業として、一つの学校の一つの部活でやったが、来年度以降のお金の目処が全く立ってないという報道がありました。1 校 1 種目で国の補助が切れると立ち行かなくなるような状況の中で、全種目を公金で賄うのは無理があるのかなと考えております。八王子で部活動に入らず、町クラブとかに入っている、中学生やその保護者は受益者負担前提である認識を持っています。ただ、八王子市の約 8 割の子どもが部活に入っていて、保護者も自分自身がそういう中で育ってきたので、対価が発生する部分に関しては説明が必要と思います。しかし、他の自治体のように令和 8 年までに部活動を完全廃止すると、必ず機会格差が生まれてしまうので、八王子市は民間の事業者へ委託ではなく、持続可能な部活動や、地域団体の皆様の活動に接続していく、というようにどの道を選んだとしても持続可能性があるようにしています。そして 1 種目の検証事業で終わらない方針であることを、紙媒体や会議等の場で八王子市の考えを示していきたいと思います。

	参加者：先程の発言の続きですが、高校の無償化も都立高校だけじゃなく、私立高校までになった例もありますので、無理と現時点で結論付けず、議論・検討を続けていただければと思います。 **高橋課長：**居場所の問題で話題になりましたので、ご紹介をさせていただきたいと思います。全校に設置する部活動や、特色のある部活動があっても居場所がない子どもに対しての取り組みが進んでおります。学校運営協議会や地域学校協働本部の皆さんが、放課後カフェを運営して居場所づくりの事業を進めていただいています。また、今週末の日曜日に学校運営協議委員会の会長が集まる情報連絡会で成果発表が行われます。一例を挙げますと、上柚木中学校の放課後カフェでは初回で生徒 92 名の方が来まして、非常に盛況だったという報告もいただいております。各学校の運営協議会でも、居場所の問題に向き合うきっかけ作りを提供していければと思います。クラブ活動だけではなく、違った関係からの居場所づくりも非常に大切であることは、教育委員会全体の中で認識をしているところです。以上です。 平塚部長：補足ですが、年末に国も子どもの居場所づくりに関する指針を出しており、部活動と切り離して考えても、子どもたちの居場所として公共施設等を有効活用してほしいという考え方が示されています。また、昨年できたこども家庭庁もそのような事業に対して、今後いろんな制度等を創出することも示されています。この部活動改革をしながら、子どもの居場所には最大限注意を払って確保していく必要があると認識しております。特に図書館は学生にもどんどん利用してほしいですし、市民センター中にも図書室等はありますので、いろんな形で居場所を確保していきたいです。生涯学習の理念としても、学校・職場・家庭といったように別々の居場所を確保してもらい、そこで豊かな人生を送っていただきたいので、引き続き居場所について考えていきたいと思います。八王子市スポーツ協会からも何かご意見があれば伺いたいです。 **参加者：**八王子市スポーツ協会は、第 1 回会議から部活動改革に全面的に協力する姿勢であります。ただ、受益者負担の問題ですが、各クラブに入った場合には当然費用はかかります。学校からクラブ活動として入った人は無料で、一般で入った人が有料であると不公平になりますので、地域団体側としては公平となるよう配慮いただきたいです。学校クラブはお金があまりかからないところであり、そこで自分の才能を見出す方もいらっしゃるとは思います。教育委員会側と学校側で引き続き意見交換や連携を取り、部活動改革への共通認識を深めていただければと思います。私達は部活動をある程度残した上で、地域と連携していく方針には賛成しています。ただ、受け入れ調査は時間がかかっており、どのぐらいの受け入れできる態勢なのかは現時点で何も言えない状況です。 **鴨狩統括指導主事：**行政としては、今後の方針を示していければと思っています。学校は子どもを目の前にして活動しておりますので、部活動の顧問をやると大変さはあり、このままの態勢は維持できない状況です。先日の校長会でも「学

	校としても何としたい思いはありますが、先を見通せない不安がある」という声も聞いています。我々も最終ゴールがどこに行き着くかを見据えて、より良いものになる可能性を探るためにも、方向性はしっかり示していければと思っています。一方、茨城県の谷田部東中学校では、校長先生が主体となって部活動地域移行を県や市に要望しましたが、事業が進まなかったため、クラウドファンディングでお金を集めた例もあります。他にも地域団体を設立し、部活動地域移行を進めようとしたところ、先進事例として国の補助が入ったこともあり、実は学校単独でもできることもあります。地域団体を設立し、そちらから指導者を派遣してもらって、当時だと毎月 1,400 円程度のお金を払い、学校で活動しているとのことでした。先生たちは顧問ではないので勤務時間が終わったら帰れますし、教材研究を続けている人もいるということで、その学校は先生から人気になりましたが、校長先生は「自分達の学校でもできるのではないか」と疑問を感じているとのことでした。教育委員会だけで考えて進めていくのも難しいので、学校とも事例等を通して話し合っていく必要があるとも考えています。初めの苦しみはありますが、その気持ちも踏まえて教育委員会と学校で連携して進めていければと思います。 **平塚部長：**他に発言したい方がいらっしゃればどうぞ。第 3 回検討会として資料にもありましたが、八王子市の大きな方針としまして、持続可能な部活動と地域活動に参加しやすい環境づくり、その両方により子どもの体験機会を拡大していくことが、基本的な基本理念・方針となっております。これを進めていく上で、経済的な問題や、障害で居場所がなくなる子どもがいないように配慮して進めていきます。その辺については、この検討会でもぜひ共有していただいた中で、より良い形にできるように、皆様のご意見等をいただければなと思っております。「市民・保護者・子どもに情報提供することが大事である」というようなご意見もいただきました。例えば地域活動している子どもたちの例を紹介するような、プロモーション的な情報提供の仕方も今後考えていく必要があると思っています。子どもたちが地域で楽しそうに生き生き過ごしている姿を見ながら、「自分もやってみたい」と思えるように工夫する必要もあると感じました。会議終了後でも何かご意見あれば、事務局担当にお話しいただけばと思います。本日は長時間となりましたが、ご意見をいただきありがとうございました。また、次回につきましては新年度を予定しておりますが、国からの情報等がありましたら、その都度必要な情報を提供させていきたいと思います。最後に事務局から何か連絡事項ございますか。 **林主任：**次回開催予定日は、事務局側から改めてご連絡していただきます。 **平塚部長：**それでは第 3 回中学校部活動検討会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。